

研究の背景及び目的

本年度は、県内の小学校教諭を対象として、生徒指導スキルの研修の需要調査と、研修メニューを構築することを目的とした『生徒指導スキルの測定尺度』の標準化の作業を行った。

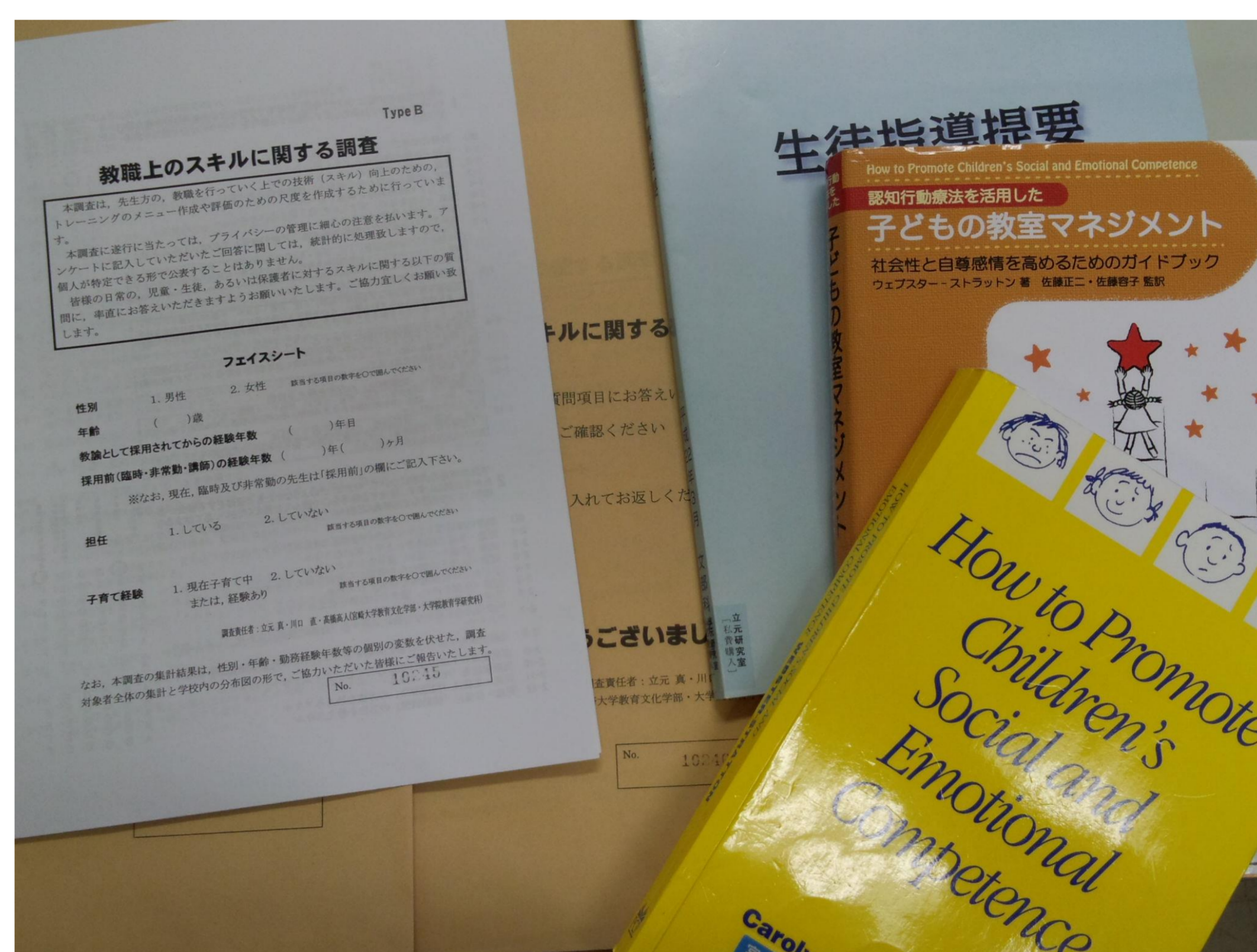
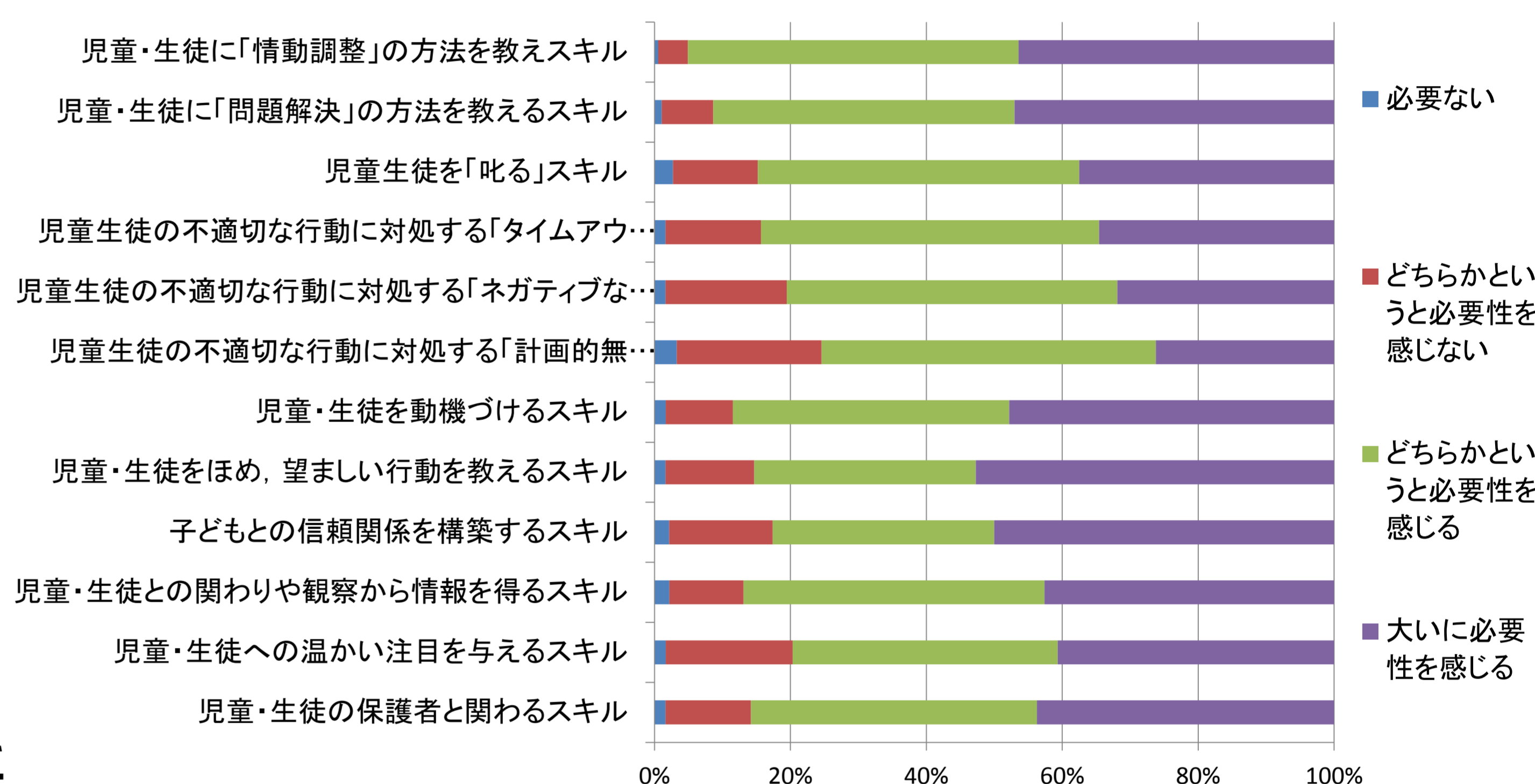
実施状況

本年度は、県内の小学校教諭を対象に、我々が翻訳した「生徒指導提要」, 「子どもの教室マネジメント 社会性と自尊感情を高めるためのガイドブック」をもとに『生徒指導スキルの測定尺度』の原案を作成したが、この作業には多くの時間と労力を要した。質問項目は、結果的に約200問となった。1人の調査対象者に対してこれだけの量の項目を問うのはあまりに負担が大きいため、質問紙を2つに分割して調査を実施した。この結果、各調査の対象部数が因子分析の統計処理に耐えうる数に達していないため、現在、単純集計および仮の統計処理を行ったところである。年度が明けて、対象校が落ち着いたところで追加のデータ収集を行い、遅れを取り戻し作業を進める予定である。

本年度のデータによる、理論にもとづく尺度構成によって、小学校教員198例の回答を集計した結果を以下に示す。

本研究で調査した、12項目の生徒指導上の教員のスキルについて、小学校の教員は概してその研修の必要性を認めていた。すなわち、生徒指導上の教職スキルの研修の需要は高いと判断できる。一部、「児童・生徒の不適切な行動に対処する『計画的無視』や『しらんぷり』のスキル」のように、「大いに必要性を感じる」という回答が高くはないものがあったが、スキルの背景にある理論が理解できたり、実践で明確な効果が得られるようになってくると、評価が一気に変わってくると予想される。したがって、有効な研修を企画できれば、それは現場で様々な子どもの注目獲得行動に手を焼いている小学校の教員にとっても有効かつ魅力的なスキルになっていくものと考えられる。

また、女性の教員は、「児童・生徒との関わりや観察から情報を得るスキル」、「児童・生徒の不適切な行動に対処する『ネガティブな結果の提示』のスキル」、「児童・生徒に『情動調整』の方法を教えるスキル」のスキルに対して「大いに必要性を感じる」と高く評価する者が多かった。



目標の達成度及び成果

26年度の実施状況は、調査の遅れのため、『生徒指導の学生研修プログラム』の策定も遅れている。全体的には7割程度の進行状況である。新年度早々には、調査結果の統計処理が可能な部分から報告していく予定である。

今後の課題及び展開

サンプルを追加収集し統計処理を完了するとともに、『生徒指導の学生研修プログラム』の策定作業を急ぎおこなう。そして、生徒指導の学生研修プログラム』の効果検証を試みる3年目には、各家庭での朝ごはん時(食事内容とコミュニケーション)の調査を行い、それに基づいて学校・担任教諭が保護者に伝える『保護者への朝ごはん改善プログラム』を策定する。さらに、このプログラムを実践し、効果検証を行う

立元 真, 川口 直, 高橋 高人, 兒玉 修
(宮崎大学 大学院 教育学研究科) (宮崎大学 教育文化学部)

地域志向教育研究経費区分 Ⅲ. 自由公募型
対象となる領域 A

＜問い合わせ先＞
みやだい COC 推進機構
住所: 宮崎市学園木花台西1-1
Tel: 0985-58-7250
E-mail: coc@of.miyazaki-u.ac.jp